

# 大正町史編さんだより

今月も各地区の歴史について紹介したいと思います。

～上宮について～

## ＜上宮の位置と地勢について＞

四万十川とその支流相去川の合流点の南岸に位置し、東・北・西の三方を大きく屈曲した四万十川に囲まれています。集落は四万十川の氾濫の際堆積された肥沃な河岸段丘上に川に沿って分布しています。



河岸段丘上にある上宮地区の集落

上宮は肥沃で広い土地がありましたが用水が不足し田地は干害を受けることが度々でした。一方、洪水の被害を受けることも多く、針木地区には田地を守る御普請の堤防が3ヶ所ありました。昔は大石で築かれたものでしたが、現在は一部を除き田地の中に埋没しています。(地区の言い伝えでは野中兼山が整備したと言われています。)

また、集落には上・中・下と3ヶ所の舟渡があり、対岸への重要な交通手段でした。

## ＜上宮の地名と歴史について＞

地名は慶長2年(1597年)の上山郷地検帳にも「上宮村」と記載され、喜多川村(北ノ川)を構成する一村でした。また、針木地区についても「ハリ木村」として記載されています。

寛保3年(1744)の郷村帳(村々の人口や戸数等を記した書)では家数28、人数109、馬19。寛政3年(1791)では家数20、人数113(大正町誌より)。享和元年(1801)の「西郡廻見日記」によれば家数22、人数117、馬29。明治10年には戸数31、人数144、大正3年は戸数31、人口205、昭和30年は世帯数32、人口206、現在(2005)は世帯数37、人数127となっています。

明治8年 上宮字大沢の宝蔵庵、針木宮脇家に小学授業場が開設される。

明治23年 水害により住家2軒流失、死者2名

大正13年 西久山ため池完成(総工費15,000円)

※ 昭和2年農業貯水池造成

昭和12年 大正電気株式会社により電気が灯る  
(針木は昭和15年)

昭和32年 海外移住パラグアイのフラム地区へ4家族26名出発

昭和32年 上宮沈下橋完成



ため池

## 上山の檣やぐら(泊まり屋)

大正2、3年頃まで町内では上宮と針木、大奈路(八足)の3ヶ所には檣(泊まり屋)が残っていました。高さが4m位で6畳位の広さがあり、集落の若者が集まり夜通し語り合う場として、また集落の若者を一ヶ所に集め外敵から自衛するためであったとも言われています。現在は宿毛市山奈町にある浜田の泊まり屋(国指定重要文化財)が有名ですが、明治・大正時代頃までは大正町にもこのような泊まり屋が各地にありました。



泊屋(ヤグラ)